韓國における創作ダンス授業に関する研究
—舞踊学科学生の反応を中心に—

玄　　悰　禎

1.　研究目的

本研究の目的は，韓國の舞踊教育の現状をふまえて，韓國の普通教育における創作ダンス授業の活性化をはかるために，創作ダンスの修行を検討しようとすることにある。
今回は創作ダンスの授業を履修した舞踊學科學生の反応を中心に考察を行なう。

2.　研究方法

(1)　教育制度及び指導要領の學習内容，學生のダンス経験調査（1989年）の分析から韓國の舞踊教育の現状把握を試みた。

(2)　大學において創作ダンス指導法（前期　9回，後期　9回，1年合計18回）の授業を2年間（1992年度，1993年度）實踐し，受講した學生64名（舞踊學科學生）を對象にアンケート調査を行なった。

アンケート調査は前期9回めの授業終了後に行なった。

3.　韓國の舞踊教育の現状

(1)　韓國の舞踊教育の制度と學習内容

韓國の學校教育において舞踊學習は體育教科内で行なわれて，小學校は「リズム及び表現運動」中學校，高等學校は「舞踊」として行なわれている。初．中．高校がすべて1年間を通じて週1回（45－50分）舞踊授業がある。また専門家の養成を目的にする芸術高校8校は舞踊學科を有する30余個の大學（7割の大學が修士課程，博士課程10余大學を有している）があり，それらの教育機關では，現代舞踊，韓國舞踊，バレエの各専攻に別れて指導され，毎年1500人余の卒業生を輩出している。

(2)　韓國の普通教育におけるダンス指導の實態

①學校で経験したダンス種目〈一般大學生　N＝88　複数回答〉

一般大學生を對象にしたダンス経験調査の結果（1989）から韓國の舞踊學習内容を考察する。

小學校：第1位から順にあげると，韓國伝統舞踊(19.3%),韓國民俗舞踊（17.0%），フォークダンス（13.6%）であり，これらはほとんど運動會で経験したものであった。したがって，小學校のダンス學習は普通の授業ではあまり行なわれておらず，運動會でのマスゲームとしてダンス経験に終わっている。

中學校：第1位から順にあげると，フォークダンス（30.7%），エアロビクスダンス（30.7%），創作ダンス（21.6%），韓國伝統舞踊（13.6%），バレエ(13.6%),韓國民俗舞踊(12.5%)であった。フォークダンスとエアロビクスダンスで60%を占めているが，小學校より授業でダンス指導が行なわれており，また創作ダンスは21.3%の人が経験している。

高等學校：第1位から順にあげると，創作ダンス（34.1%），エアロビクスダンス(33.0%),韓國伝統舞踊(31.8%)，フォークダンス（28.4%），韓國民俗舞踊（27.3%）であった。創作ダンスは34.1%の人が経験しているが，型のある舞踊學習経験が中心になっている。

小．中．高での経験をあわせた結果は，第1位がフォークダンス，第2位がエアロビクスダンス第3位が韓國伝統舞踊，第4位が韓國民俗舞踊，第5位がバレエ，第6位が社交ダンスであった。全體的には創作ダンスはあまり行なわれていない。

②これからやってみたいダンス種目

大學生がこれからやってみたいダンス種目は，第1位から順にみていくと，エアロビクスダンス（47.7%），ディスコダンス（42.0%），韓國伝統舞踊（34.1%），モダンダンス（21.6%），バレエ（18.2%），社交ダンス（18.2%），ジャズダンス（17.0%），フォークダンス（15.9%），タップダンス（13.6%）であった。

この結果から，大學生は健康，娯樂，趣味を目的にして，いろいろなダンスの中から自分の好きなダンス種目を選擇して，これからもダンスを生活の中で樂しんでいこうとしている傾向がうかがえる。しかし創作ダンスを選ぶ學生はいなかった。

4.　授業内容と履修生の反応

(1)　授業内容（1992～3）

授業内容は，前期（1－9回）は教師によるいろいろな動きのテーマによる即興表現と創作及び各自のソロ作品創作，發表，後期（10－18回）は教職科目單位となるので，學生自身による指導實踐を中心にした授業形態をとっている。最後にグループ作品の創作，發表を行なう。
授業時間は1回90分。舞踊學科の學生は各自の専攻（バレエ，モダンダンス，韓國舞踊）の授業に

おいて，技術的には十分に訓練されており身體はよく動くが，自由に各自の作品創作を行なう経験はあまりしていない。

(2) 履修生のダンス経験—小・中・高のダンス授業において経験した内容—

① 小學校では，韓國舞踊16名（25.0%），エアロビクス6名（9.0%）で，この種目は運動會のための行事で経験された。

② 中學校では，エアロビクス14名（21.0%），バレエ9名（14.0%），韓國舞踊7名（10%），フォークダンス4名（6.0%），創作ダンス5名（7.0%）の順位であった。

③ 高校では，韓國舞踊22名（34.0%），バレエ21名（32.0%），モダンダンス20名（31.0%），創作ダンス4名（6.0%），エアロビクス3名（4.0%）であり，経験無しが8名（12.0%）であった。

以上の結果より，創作ダンスの授業をあまり経験していないことが明らかになった。

また自由記述内容からは，小．中．高の教師は技術中心のダンス指導をしていることが明らかになった。

5. 創作ダンスの授業を通して身につけた能力・態度（履修生64名，自由記述）

創作ダンス前期9回受講後の反応は，創意・工夫能力の向上35名，活動欲求の向上12名，知的能力の向上11名，協力的態度の向上6名の順位であり，9回の授業を通して，創意・工夫能力，知的能力，協力的能力が向上し，創作ダンスに對する興味・関心が高まったことが明らかになった。

—結　論—

本研究の結果，創作ダンスの反応が時に學生の創意・工夫能力の向上と活動欲求に大きく影響を與えていることがわかる。それは今まで経験していない新しい経験を通して慣れていない表現力や知的の世界を体験できるといえるでしょう。

しかし，これからの研究課題については，今回の研究では，履修生を中心に自由記述のアンケート内容から考察をしたが，次には，さらに授業評價による形成的授業評價を利用した授業研究などを進行していこうとする。

—参考文献—

1. 舞踊教育研究會（代表・片岡康子）編（1991），舞踊學講義，大修館書店
2. 玄　悰禎（1990），學校における舞踊教育の韓日比較研究．お茶の水女子大學人文科學研究科修士論文
3. 玄　悰禎（1993），Problem of Creating Dance in Korea, Japan Asia Dance Event '93 Conference Proceedings. pp. 406－408.
4. 玄　悰禎（1994），A Study of Dance Education In Korea, Tari '94 Conference Proceedings. pp. 1－13
5. 文部省（1998），小・中・高校の指導要領